

安 全 の 手 引 き

平成30年1月
在ドイツ日本国大使館

はじめに

在留邦人の皆様には、海外生活において、事件などに巻き込まれないよう日頃から心掛けておられることと思います。

ドイツは比較的安全な国といわれていますが、2016年12月、ベルリンのクリスマスマーケットへトラックが突入し、多数が死傷するテロ事件が発生し、2017年にも、ベルリン近郊においてテロ関係者と見られる者によるテロ計画未遂等の事件が相次いで発生しています。また、欧州各地では引き続きテロ事件が頻発しています。ドイツを含め欧州では国際的なイスラム過激派組織によるテロの脅威が存在すると言えます。

一般犯罪についても、ホテルや駅等でのスリ、置き引き、路上でのひったくり、ニセ警察官による強盗・窃盗等の事件が大幅に増加している他、住居への忍び込みや空き巣、駐車中の車上狙いなどといった生活に密接した窃盗事件も引き続き多発しています。また、殺人、傷害や暴行など身体に対する犯罪の被害に遭う可能性も依然としてあります。

これら一般犯罪が発生する要因として、不良外国人集団の増加等が考えられますが、皆様が犯罪等に巻き込まれないためには、日本国内で生活している時とは異なる心構えと日頃からの備えが必要です。

この度、最近の犯罪発生状況、日常生活における一般的注意事項等をふまえ、当館でベルリン州刑事庁作成のパンフレットなども参考として、「安全の手引き」(「緊急事態対処マニュアル」を含む)として取りまとめました。ご参考になれば幸いです。

目 次

はじめに

I. 安全の手引き

1. 基本的な心構え	1
2. 最近の犯罪発生状況	1
3. 日常生活における一般的な注意事項	1
(1) テロ事件に巻き込まれないために	1
《一ロアドバイス》	
(2) 犯罪被害にあわないために	4
ア スリ・ひったくり・強盗などにあわないために	4
a. スリ・置き引き	
《一ロアドバイス》	
b. ニセ警察官による強盗・窃盗	
《一ロアドバイス》	
c. ハンドバッグ強盗	
《一ロアドバイス》	
被害にあったときは	
イ 住居の安全のために	6
《一ロアドバイス》	
《押し入り強盗の手口》	
ウ 自動車の盗難などにあわないために	8
《一ロアドバイス》	
エ 傷害・暴行などにあわないために	8
《一ロアドバイス》	
被害にあったときは	

オ 騒動などに巻き込まれないために	9
カ 誘拐にあわないために 《一ロアドバイス》	10
キ 性犯罪から子どもを守るために 《一ロアドバイス》	10
ク 子どもを麻薬から守るために 麻薬依存症の前兆と対処 相談など 相談所(例)	10
(3) 交通事故から身を守るために ～特に自転車走行～ 《一ロアドバイス》	12
参考: スリにご用心	14

II. 在留邦人緊急事態対処マニュアル

1. 平素の準備と心構え	18
2. 緊急時の行動	19
3. 緊急連絡先	19
別添1 被害届出証明作成依頼書	21
別添2 緊急事態に備えてのチェックリスト	23

I. 安全の手引き

1. 基本的心構え

- 自分と家族の安全は自分たちで守るとの意識をもつ
- 予防が一番
- 行動面での安全3原則
 - ・ 目立たない
 - ・ 行動を予知されない
 - ・ 用心を怠らない(天災や被害は忘れた頃にやってくる。現地の生活に慣れた頃に油断が生じる…)

2. 最近の犯罪発生状況

ドイツにおいては、外国人犯罪組織の流入、麻薬のまん延など様々な要因から、従来以上に高い犯罪発生状況となっています。犯罪種別も窃盗のほか、傷害や暴行といった身体の安全にかかわる犯罪が多発していますので、日本の感覚のままでは思わぬ犯罪被害につながりかねません。

当館管内の中で、ベルリンは犯罪発生率が特に高い都市となっております。犯罪発生件数は高い水準にあり、スリ事件が以前にも増して多発していることから、十分に注意が必要です。

ベルリン州における、2016年から過去5年間の犯罪の発生状況は次のとおりです(ベルリン州警察犯罪統計)。

項 目	2016 年	2015 年	2014 年	2013 年	2012 年
犯罪発生件数	568,860	569,549	543,156	503,165	495,297
人口10万人当たり	16,161	16,414	15,873	14,908	14,892
窃盗に関する犯罪	270,880	267,123	242,899	226,279	213,012
スリ	44,772	40,399	32,121	20,794	17,978
強盗に関する犯罪	5,156	5,407	5,697	6,222	6,419
麻薬に関する犯罪	14,880	15,753	13,465	13,348	12,238
詐欺に関する犯罪	90,254	105,835	105,965	79,714	80,544

3. 日常生活での一般的な注意事項

(1) テロ事件に巻き込まれないために

近年、世界各地において、ISILをはじめとするイスラム過激派組織等によるテロ事件や、こうした過激派組織の主張に影響を受けたとみられる者による一匹狼(ローンウルフ)型等のテロ事件が多発しており、予断を許さない状況にあります。

ドイツにおいては、2016年12月19日、ベルリン市内中心部ブライトシャイト広場のクリスマスマーケットに大型トラックが突入し、12名が死亡、多数が負傷するテロ事件が発生しました。

この事件以降、ドイツ国内でテロ事件は発生していませんが、2017年中には、ベルリン州近郊ではテロ関係者と見られる者らによるテロ計画未遂等の事件が相次いで発生しています。また、ドイツの近隣国において次のようなテロ事件等も発生していることから、ドイツを含む欧州全体が依然として国際的なイスラム過激派組織によるテロの脅威にさらされています。

○ ベルリン市内及び近郊での主な事件

- ・ベルリン市内における「IS（イスラム国）」支持者の逮捕事件（1月）
- ・ザクセン州における「IS（イスラム国）」戦闘員の逮捕事件（5月）
- ・ブランデンブルグ州におけるシリア難民によるベルリンでの自爆テロ計画事件（5月）
- ・イラクのモスルでイスラム過激派組織に感化されザクセン州から渡航した同州出身の16歳の少女が身柄拘束された事件。（7月）
- ・メクレンブルク・フォアポンメルン州において、州警察等によりイスラム原理主義者らの身柄を拘束し居宅等搜索した事件。（7月）
- ・ベルリン市内における外国テロ組織の構成員であった容疑で「IS」（イスラム国）の関係者らの逮捕事件（9月）
- ・ベルリン市内におけるイスラム過激派組織に感化された独国籍者の逮捕及び大量の武器等の搜索押収事件（10月）
- ・メクレンブルク・フォアポンメルン州におけるイスラム原理主義に感化された19歳少年の逮捕及び爆発物原料を搜索押収した事件（11月）
- ・ザクセン州等におけるテロ計画未遂容疑でシリア人らの逮捕事件（11月）
- ・ベルリン市内における「IS（イスラム国）」戦闘員の逮捕事件（12月）

○ ドイツ近隣国での主な事件

- ・トルコ：イスタンブール市内ナイトクラブにおける銃撃テロ事件（1月1日）
- ・英国：ロンドン市内のウェストミンスター橋及び国会議事堂における車両突入・襲撃テロ事件（3月22日）
- ・ロシア：サンクトペテルブルク地下鉄における爆弾テロ事件（4月3日）
- ・スウェーデン：ストックホルム市内ショッピングセンター付近での車両突入テロ事件（4月7日）
- ・フランス：パリのシャンゼリゼ通りにおける銃撃テロ事件（4月20日）
- ・英国：マンチェスターのコンサート会場における自爆テロ事件（5月22日）
- ・英国：ロンドン市内のロンドン橋付近での車両突入テロ事件（6月3日）
- ・英国：ロンドン北部における車両突入事件（6月19日）
- ・ベルギー：ブリュッセル中央駅における爆弾テロ事件（6月20日）
- ・スペイン：バルセロナ及びカンブリスでの車両突入テロ事件（8月17日）
- ・フィンランド：トゥルクにおける通行人襲撃テロ事件（8月18日）
- ・英国：ロンドンにおける地下鉄での爆弾テロ事件（9月15日）

- ・フランス：マルセイユの鉄道駅における刃物を用いた襲撃テロ事件（10月1日）
- ・ロシア：サンクトペテルスブルグのスーパーでの爆弾テロ事件（12月27日）

《一口アドバイス》

テロ事件を予測することは容易ではないですが、普段からの心掛けと対処で、被害を最小限に抑えることができます。

1) 被害の予防策として以下の点に注意してください。

○外務省が発出する海外安全情報及び現地報道等により、最新の治安情勢等の関連情報の入手に努める。なお、情報収集には「たびレジ」に登録していただき、ご活用願います。

○以下の場所がテロの標的となりやすいことを十分認識する。

- ・不特定多数が集まる場所（観光施設、公共交通機関、宿泊施設、レストラン、リゾート施設、繁華街、イベント会場、複合商業施設、野外マーケット、市場、大学等）

- ・宗教施設、政府・軍・警察関係施設、欧米関連施設等

○上記の場所を訪れる際には、周囲の状況に注意を払う。不審な人物や状況を察知したら速やかにその場を離れる、できるだけ滞在時間を短くする。また、その場の状況に応じた安全確保に努める。

○現地当局の指示があればそれに従う。

○不測の事態に備え、訪問先の出入口や非常口、避難経路、隠れられる場所等についてあらかじめ確認する。

2) 実際に事件に遭遇した場合は、被害を最小限に抑えるため、警察官等の指示をよく聞き冷静に行動するように努めてください。また事件の形態別の注意事項は以下のとおりです。

【車両突入の場合】

○ガードレールや街灯などの遮へい物がない歩道などでは危険が増すことに留意する。

○遮へい物がない歩道では、できるだけ道路側ではなく建物側を歩く。

【コンサート会場、スポーツの競技場等の閉鎖空間】

○会場には時間より早めに入る、終了後はある程度時間を置いてから退出するなど、人混みを避けるよう努める。

○会場の外側や出入口付近での人だまりや行列は避ける。

○パニック状態となった群衆の中で負傷するおそれもあり、周囲がパニック状態になっても冷静さを保つよう努める。

【爆弾、銃撃等に遭遇した場合】

○その場に伏せる。あるいは頑丈なものの陰に隠れる。

○周囲を確認し、可能であれば銃撃音等から離れるよう、速やかに、低い姿勢を保ちつつ安全なところに退避する。出入口に殺到して将棋倒しなどの二次的な被害に遭わないよう注意が必要。

（海外旅行のテロ・誘拐対策パンフレット(<http://www.anzen.mofa.go.jp/pamph/pamph.html>)も併せて参照ください。）

海外安全ホームページ

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

たびレジ

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>

海外安全アプリ

http://www.anzen.mofa.go.jp/c_info/oshirase_kaian_app.html

(2) 犯罪被害にあわないために

ア スリ・ひったくり・強盗などにあわないために

スリ、強盗やひったくりの犯人は、犯行前に狙った者の行動を注視していることが多く、犯行の機会を待っています。スリや強盗にその機会を与えないようにすることが大切です。詳しくは末尾の「[スリにご用心](#)」を参考にしてください。

a. スリ・置き引き

駅、電車やバスの中、デパート、スーパーマーケットのレジ、空港、ホテルの受付や朝食時のレストラン、催し物会場など人が多く集まる場所には、複数犯のスリがいることに注意してください(一人が近付き話し掛けるなど注意をそらしている隙に、他の共犯者が実行するなどの手口。)

《一口アドバイス》

- ・ 街角の現金自動支払機や銀行窓口で現金を引き出す時は、まわりに不審者がいないかどうか注意する。
- ・ 所持金の額を他人に知られないようにする。現金を数える時は、人に見られないようにする。
- ・ 必要以上の多額の現金を持ち歩かず、クレジットカード、ECカードなどを利用する。また、カード犯罪も多発しているため、スキミングされないよう注意する。
- ・ 多額の現金を引き出す時は、知人に同伴してもらう。支払いは別室でしてもらう。
- ・ 貴重品、財布などは常に身につけ、内ポケットなどに分散して持つなど、他人に見えないように気をつける。
- ・ 見知らぬ人に話しかけられた時などは、共犯者がいることがあるので注意をそらさない。特に人がぶつかってきた時に、「衣服が汚れています。」などと見知らぬ人に話しかけられた時は、スリの共犯者がいると考えて十分な注意を払う。
- ・ 財布や貴重品を、外から見えるような買い物かごやショッピングカートなどには入れない。

b. ニセ警察官による強盗・窃盗

ベルリン市内中心部のブランデンブルク門付近、フリードリヒ通りやクアフルステン通りでは、薬物捜査官を称するニセ警察官が、観光中の邦人を呼び止め、所持していたバッグや財布の中を調べるふりをして金品やクレジットカードを抜き取る事件が複数発生しています。中には、財布の中身を調べる際に被害者からクレジットカードの暗証番号を聞き出し、その後、多額の現金が引き出された事例もあります。

《一ロアドバイス》

- ・ 警察官が職務質問する場合には、制服・私服警察官に限らず、最初に警察官の身分証明書を提示することになっている。
- ・ 警察官が、路上等で財布の中身(所持金)を調べたりすることはない。
- ・ 同身分証明書は、警察官の職種によって赤、緑、銀、黄、白と異なっているが、いずれも銀行のキャッシュカードと同様の大きさで、左側には当該警察官の顔写真、右下にはベルリン州警察であれば、ベルリンの熊のマークが貼付されている。
ベルリン州警察ホームページ(階級及び身分証明書)
<http://www.berlin.de/polizei/verschiedenes/artikel.89925.php>
- ・ 不審に思った場合には、直ぐに携帯電話等から、緊急の警察直通電話である110番に連絡する。

c. ハンドバッグ強盗

ハンドバッグ強盗は被害者の後ろから近づき、追い越しの際(自転車やスクーターなどの時もあります。)にハンドバッグをひったくるものです。

《一ロアドバイス》

- ・ ハンドバッグは締め金具を内側にし、常に身体の前なたすき掛けにして、車道や自転車道の反対側に持つ。
- ・ 財布や鍵などは必ず身に付け、ハンドバッグに入れて持ち運ばない。
- ・ ひったくりなどにあつて転倒しそうになった時は、ハンドバッグをはなす。強盗には決して抵抗しない。

被害にあつたときは

- ・ 犯人の外見、服装、逃走方面に注意し、直ちに警察に届け、被害届受理証明書(Diebstahlanzeige)をもらう。別添1の当館監修による「被害届出証明作成依頼書」を参考にしてください。
- ・ 盗難にあつたクレジットカードは、即刻使用停止の手続きをする。
- ・ 住所を記載した書類などと一緒に住居の鍵が盗難にあつた時は、まず住居の隣人、知人などに知らせる。住居に侵入されないように、できるだけ早く住居の錠を取り替える。

- ・ 自動車登録証や住所を記載した書類などと一緒に車のキーを紛失した時は、自動車の錠を取り替える。

ベルリン中心部の警察署

区	分署	所在地	最寄駅	Tel
Charlottenburg -Wilmerdorf	24	Kaiserdamm 1 14057 Berlin	U2: Sophie-Charlotte-Platz	(030) 4664 224 701
	25	Bismarckstr. 111 10625 Berlin	U2: Ernst-Reuter-Platz	(030) 4664 225 700
	26	Rudolstädter Str. 79-81 10713 Berlin	S41・S42・S46: Hohenzollerndamm	(030) 4664 226 700
Mitte	31	Brunnenstr.175 10119 Berlin	U8: Rosenthaler Platz	(030) 4664 331 700
	32	Keibelstr.35 10178 Berlin	U2: Alexander-Platz	(030) 4664 332 700
Tiergarten Moabit	33	Perleberger Str. 61A 10559 Berlin	S41・S42: Westhafen U9: Amrumer Str.	(030) 4664 333 700
Tiergarten	34	Alt Moabit 145 10557 Berlin	S5・S7・S75・S9: Hauptbahnhof	(030) 4664 334 700
Wedding	35	Oudenarder Str. 16 13347 Berlin	U6: Seestr. U9: Nauener Platz	(030) 4664 335 700
	36	Pankstr. 29 13357 Berlin	S1・S2・S25: Humboldthain U8: Pankstr	(030) 4664 336 701

ベルリン州警察ホームページ

<http://www.berlin.de/polizei/>

イ 住居の安全のために

「空き巣」、「忍び込み」や「押し入り強盗」は、犯行発覚時や犯人との遭遇により、殺人や強盗といった凶悪事件に発展する可能性の高い極めて危険な犯罪行為です。これら犯行を防ぐためには、安全錠の取り付けや施錠の励行、近所の人と緊急時には助け合える良好な関係を日ごろから築いておくことが大切です。

空き巣を防ぐためには、安全性のテストをした空き巣防止用の窓やドアを取り付けることなどが重要です(ただし、工事には家主の承諾が必要)。また、ドア本体、枠、蝶番、錠、補強金具、錠の受け座は相互に調和していることも重要です。

在室中に住居に侵入する忍び込みには、在室時においても窓やドアの確実な施錠などの基本的対策の実践が何より大切です。

《一ロアドバイス》

1)不審者

- ・ 建物内や庭に見知らぬ人を見かけた時は、その人の動きに気を付け、用件をたずねる。

2)施錠

- ・ 外出の際はたとえ数分でも必ず鍵をかけ、鍵は必ず最後まで廻す。
- ・ 数分間の外出でも、窓やバルコニードア、テラスドアを斜めに半開きのままで留守にしない。この場合、家財保険会社は窓などを開けたままの状態とみなし、保険が適用されないことがある。換気の際の窓などを、不注意に開けっ放しにしておかない。
- ・ 住居の地下室の鍵は常にかけておく。住居の入り口ドアには日中でも鍵をかけておく。
- ・ 鍵をドアの外側に差し込んだままにしない。この場合は、家財保険が適用されない。
- ・ 窓、バルコニードアやテラスドアには、一般に簡単な補強金具しか取り付けられていないので、簡単にこじ開けることができる。窓やドアが把手部分の施錠だけのものは、こじ開け防止には何の役にも立たないので、安全性のテストをされた門で補強するか安全補強金具を取り付ける。
- ・ 望ましい状況は次のとおり。
錠が二つ以上付いている。
入居する際はシリンダーを交換する。
外観から錠の構造が分からないものを取り付ける。

3)長期不在

- ・ 長期間の留守で郵便受けの新聞、ダイレクトメール、手紙などが差し込まれたままにしておかないなど、留守であることを悟られないようにする。

4)貴重品

- ・ 貴重品は見えるところに放置しない。普段必要としない貴重品は、銀行などに保管することがベスト。室内で最善の隠し場所と思っても、空き巣には感づかれ易いもの。
- ・ 個々の品の購入価格、購入日、指輪などに彫り込まれた文字、飾り、模様などを記した貴重品リストを作成しておく。あるいは写真に撮っておく。

《押し入り強盗の手口》

来訪者には、まずインターフォンやのぞき窓で確認してからドアを開けます。見知らぬ人にはドアを開けないで対応するか、ドアチェーンをかけたまま対応することが重要です。うっかり気を許してドアを開けたとたんに、押し入り強盗に早がわりすることがあります。

例えば、このような事例があります。

- ① 気分が悪いのです。薬を飲む水をいただきたいのですが、中に入っていないですか。
⇒ドアを開けない。

- ② 事故を起こしたので至急医者に連絡をとりたいのです。電話を使わせてくれませんか。
⇒断る。または、家の中に入れないで替わって電話をしてあげる。
- ③ 隣家に花(プレゼントなど)を持ってきたのですが、不在なので預かってもらえませんか。
⇒受け取らない。または、ドアの外に置いてもらう。
- ④ 子供が便意を催しています。トイレを貸してくれませんか。
⇒断る。
- ⑤ 宅配ですが、荷物を持ってきました。
⇒身に覚えがない場合はドアを開けずに断る。

ウ 自動車の盗難などにあわないために

車内に置いた金品の盗難や自動車の盗難は、ベルリンの多くの地域で発生しており、増加傾向にあります。特に、市中心部から離れた人通りの少ない、あるいは人目に付かない場所での駐車には、十分注意する必要があります。

《一ロアドバイス》

- ・ 自動車には盗難防止装置(警報装置)を装着する。
- ・ 車を離れる際には確実にロックをし(ハンドルロックもカチッと音がするまで完全に行う。)、窓が閉まっていることを確認する。わずかな間の駐車でもキーは必ず抜いて携行する。
- ・ 貴重品を車内に放置したまま車から絶対離れない。車を離れるときは周囲に怪しい人影がないか、よく確認する(自動車本体及びカーステレオなどの付属品は、車両保険の対象となっても、車内に放置した貴重品については保険が適用されないので、注意が必要。)
- ・ 座席など目に見えるところにハンドバッグやリュックサックを置いたままの自動車が、最も車上狙いの対象となり易い。
- ・ カーナビゲーションもポータブルの場合、駐車時は取り外しておく。
- ・ 駐車場を契約する場合には、できる限り、鍵の掛かるシャッター付又は地下駐車場を選ぶ。
- ・ 女性ドライバーの駐車場利用に際しては、できるだけ女性専用駐車場を設けているところを利用する。女性専用駐車場がない駐車場でも、管理人のいる駐車場を利用し、明るい場所、できるだけ管理人室の近くを選び、公共駐車場といえども危険なことがあることに十分に注意する。
- ・ 人目のない暗い場所での駐車は極力避ける。

エ 傷害・暴行などにあわないために

ツォー駅などの主要駅周辺、深夜の地下鉄・Sバーン・バス、クーダムなどの繁華街、外国人居住者が多い地域、観光スポット周辺などでは、犯罪発生率が高い傾向にあります。特に

夜間には、不良グループ、凶器所持者、泥酔者、薬物使用者などの徘徊も増え、閉店間際のスーパーや深夜のガソリンスタンド・キオスク等では、けん銃のようなものや刃物を使用した強盗事件や、バスの運転手が乗客に殴られるなどの車内での傷害事件も多発しておりますので、思わぬ状況で犯罪に巻き込まれる可能性が、特に高くなります。

《一口アドバイス》

- ・ ベルリンには特定地区の歓楽街はないが、いかがわしいバーなどへ近付くことは、極力避けることが無難。
- ・ 夜間の公園、人通りのないところでのジョキング、散歩などはしない。
- ・ 深夜に街を徘徊しない。
- ・ 深夜の電車には乗務員のいる1両目、または、なるべく乗客の多い車両を選んで乗る。
- ・ 深夜の電車、特にSバーンの利用は避け、できるだけタクシーを利用する。
- ・ アウトバーンの入り口付近などでしばしば見られるヒッチハイカーを、安易に自分の車に同乗させない。
- ・ 個人レベルで募集している Mitfahrgelegenheit（不特定多数の乗合で、通常、遠距離の都市への運行が多い。）を、不用意に利用しない。

被害にあった時は

- ・ 自力で対処しようとしなくて、付近の人への助けを求めたり、警察への通報を依頼するなど、躊躇せず応援を求める。
- ・ 犯人が凶器を所持していることも予想されるので、状況を冷静に観察し、相手をいたずらに刺激するような言動には十分注意する。
- ・ 電車内や駅構内で暴行などの被害にあった時は、車両内のアラームやホームにある「SOS」を使い、助けを求める。
- ・ 暴行を目撃したり、暴行の被害にあった場合は、直ぐに110番に電話する。

オ 騒動などに巻き込まれないために

ベルリンでは、日々さまざまな街頭デモや集会、屋外イベントなどが開催されています。特に、毎年5月1日に行われるメーデーでは、会場となる Kreuzberg 地区の Mariannenplatz 及び Oranienstr. 一帯、Prenzlauerberg 地区の Kollwitzplatz では、アウトローメ（無秩序主義者）による警察官に対する投石や挑発などで大きな騒動となり、機動隊と衝突する事態が例年起きています。

また、大晦日（Silvester）から新年にかけての花火打ち上げでは、負傷事故も発生しています。そのような場所には、むやみに近づかないことが肝要と言えます。

その他、2014年秋ごろから、ベルリン、ドレスデン及びライプツィヒ等の都市において、反イスラム化デモ又は移民政策反対デモ並びにそれらデモに反対するデモが発生していますので、

同様に注意が必要です。

カ 誘拐にあわないために

ドイツでも、日本人や日系企業が誘拐事件の対象となる可能性は、決して排除できません。不必要に警戒することはないにしても、誘拐の対象にならないように日頃から心掛けることが大切です。

《一ロアドバイス》

- ・ 日常行動のパターン化を避け、目立った行動をとらない。
- ・ 近所に転入者があるときは、転入者に監視されていないか注意する。
- ・ 住居の内外に適当な照明を取り付ける。
- ・ 不審な電話がしばしばかかる場合は、警察に連絡し相談する。
- ・ 乗用車乗降の際、付近に不審な者(付近に駐車中の車内も含め)がいないか、よく注意をする。
- ・ 通勤ルートを時々変える。
- ・ 自分の車が追跡されていないかどうか注意する。
- ・ 見知らぬ人の停車要求には応じない。
- ・ 見知らぬ人を自分の車に乗せない。アウトバーンなどで車両故障などによる救済を求められた場合でも直ちに停車しないで、最寄りのガソリン・スタンドなどから警察に連絡する。
- ・ 買い物、公園、遊び場などで、子どもから目を離さない。

キ 性犯罪から子どもを守るために

ベルリン州では、2016年には2,852件の性犯罪が発生しています。

幼児・児童が、様々なトラブルへの対応方法を学ぶためには、大人の助けが不可欠です。ティーンエイジャーでも、犯罪の犠牲者や加害者になることがあります。

子どもに対する性犯罪の可能性を感じた時には、その解決や必要な措置などについて、専門家に委ねることが肝心です。

《一ロアドバイス》

- ・ 親の許可なしに見知らぬ人について行ったり、見知らぬ人の車に乗ったりしないよう、日頃からの教育に心がける。
- ・ 学校や遊び場には子どもを一人で行かせないで、他の子ども達と一緒にさせる。子どもには時間を厳守するよう教育する。
- ・ 万一の場合に備え、子どもと一緒に危険な状況での対応の仕方を練習しておく。

ク 子どもを麻薬から守るために

麻薬の危険、麻薬の依存は一朝一夕に起こるものではありません。子どもの性格、社会環境、麻薬の魅力、麻薬が手に入りやすいドイツの環境など、相互に絡み合った一連の複雑な原因によるものです。麻薬依存症は、どこの家庭でも起こり得ます。年齢、性別、学歴、職業の別なく誰にでも起こり得ます。麻薬依存の危険防止のため、専門家の支援を受けて、その助言をいかすことが必要です。

麻薬依存症の前兆と対処

麻薬依存症に明白な兆候はありません。また、子どもの顔を無意識に見ていて分かるものでもありません。しかし、深刻な問題を意味する前兆があります。その時は、注意深い観察が必要となります。このような前兆は、麻薬依存症である危険性もありますが、他の問題によることもあります。

次のような状況が長期間続いたり頻繁である場合には、その原因を究明する必要があります。親はまず教師、カウンセラーなどに相談して、深刻な問題が根底にあるとの印象を感じた場合は、相談所(Erziehungsstelle, Familienberatungsstelle)で助言を受けることが重要です。

- ・ 消極的である。自主性がない
- ・ 自信の喪失
- ・ 何に対しても心構えがない
- ・ 心的葛藤を克服できない
- ・ 問題解決能力の低下
- ・ 自分自身に対する過大要求
- ・ 人と接触することが困難

相談など

質問、助言、支援は、相談所にて無料で受けることができます。相談所は、警察と連携していませんから、刑事訴追を心配することはありません。麻薬依存の前兆となる行動を早い段階で認識し、ためらうことなく対処することが重要です。問題克服には、相談所の支援が役立ちます。相談所(住所、電話番号)は市町村の児童福祉課(Jugendamt)あるいは教会などに照会してください。また相談所では匿名の相談にも応じています。各市にある相談所については電話帳(Gelbe Seiten)の「Beratungsstellen(相談所)」、「Jugendberatungsstellen(青少年相談所)」、「Drogenberatungsstellen(麻薬関係相談所)」の欄にも掲載されています。

相談所(例)

Humanistischer Verband Deutschlands
Landesverband Berlin e.V.
Wallstraße 61-65, 10179 Berlin Tel.030-6139 0434

E-mail: info@humanismus.de

Familie im Zentrum Standort Lichtenberg
Familieberatungs und Bildungsstelle
Rudolf-Steiffert-Str.50a, 10369 Berlin Tel. 030-9787 0011～16
E-mail: familienzentrum-r@eif.de

Familie im Zentrum Standort Lichtenberg
Nöldnerstraße 43, 10317 Berlin Tel. 030-5220 649
E-mail: familienzentrum-n@eif.de

Familie im Zentrum Standort Mitte
Maxstr. 3a 13347 Berlin Tel. 030-4377 5500
E-mail familienzentrum-m@eif.de

(3) 交通事故から身を守るために～特に自転車走行～

ベルリンでは道路もよく整備されており、交通規則も守られていますが、住み始めて間もない日本人の方々は、歩道に併設されている自転車専用道に不慣れなため、自転車走行者、歩行者ともども思わぬ交通事故に巻き込まれることがあります。

一般に、自転車に乗ることを安易に考えがちですが、ドイツにおいては自転車走行にも様々な交通規則が設けられています。

自転車による交通事故の大半は、自転車に乗る人が交通標識をよく見なかったり、信号を無視したりする場合がほとんどです。自転車に乗る時は、自動車運転者と違って自分の体を直接守るものがないことをよく認識し、目立つ服装の色を選ぶというような注意も必要です。

ベルリン州における交通事故の発生状況

年		2016	2015	2014
件数		141,155	137,713	132,718
負傷者数		17,394	17,838	17,492
死亡者数		56	48	52
状態別	歩行中	21	19	21
	自転車乗車中	17	10	10

二輪車乗車中	10	6	13
乗用車乗車中	0	13	7
二輪車同乗中	7	0	0
その他	1	0	1

《一ロアドバイス》

- ・ 歩行者は、歩道に設けられている自転車専用道を原則として歩かない。
- ・ 自転車道を安全走行している自転車と自転車専用道を歩いていた歩行者との間で生じた事故は、歩行者側の責任が問われる。
- ・ 自転車に乗る時は、基本的に自転車専用道を走行する。自転車専用道が設けられていない道路の場合には、バス優先道路帯、または自動車道を走行する。ただし、8歳未満の子どもは歩道走行が義務付けられており、8歳以上10歳未満の子どもは歩道走行も許可されている。
- ・ 自転車に乗る時には、ヘルメットを着用する。
- ・ 子どもを自転車に乗せる場合は、チャイルドシートを自転車に装着する。
- ・ 自転車の大人二人乗りは禁止。
- ・ 飲酒や違反行為による自転車走行で悪質と判断され、その人が自動車運転免許所持者である時は、数ヶ月間の運転免許停止の処分となることもある。

スリにご用心

ドイツは比較的安全な国と言われていますが、ベルリン市内の駅や観光地などにおいて置引き、スリによる邦人旅行者、在留邦人の方々の被害が相次いでいます。大使館では、ベルリン州刑事庁作成のパンフレットなどを参考に、スリの手口や犯罪統計などについてまとめました。

一瞬の隙や油断から、貴重品の入ったバッグなどを盗られたりすると、せっかくの楽しい旅行も当地滞在も台無しになってしまいます。特に、パスポートを盗まれたり紛失したりすると、大使館や総領事館でのパスポートの新規発給手続きなどのために、旅行日程を変更しなければならないこともあります。

人通りがあり、治安がよい地域だからといって安心せず、人が不自然に近寄ってきたら避けるなど、周囲には十分注意してください。

スリの手口

複数の犯人がチームを組んで役割分担をしながら、トリックを用いたり、混雑を利用したり、押し合いを発生させたりして、スリを行うことが多くなっています。何人かが被害者の注意をそらし、一人がバッグないしはポケットから財布などを抜き取り、仲間がそれに気付かれないように、すった財布を受け取って逃げ去ります。

なお、2018年1月、ベルリン州警察ではホームページ上において、次のような手口を具体的に写真付きで紹介し注意喚起しておりますのでご参照下さい。(ベルリン州警察のホームページで以下「カバー防御スリ」から「スポーツやサッカースリ」までを新たに掲載。)

(<http://www.berlin.de/polizei/aufgaben/praevention/diebstahl-und-einbruch/artikel.119058.php>)

- カバー防御スリ (Abdeck Trick)
客が飲食店に座って、テーブルの上に携帯電話や財布を置く。その上に寄付金リストや地図、物乞いの紙などを置いて、寄付してくれないかと言い寄っているうちに、その紙などの下に置いてある携帯や財布をすりよせて盗む。
- ダンススリ (Antanz Trick)
被害者の周りを踊って一緒に踊る時に、体が接触し、その間に貴重品をすられる。
- あいさつ・ハグスリ (Begrüßungs- und Umarmungs- Trick)
被害者のそばに来て、挨拶をしたり抱きついたりする。その際に体に接近して上着などから貴重品を盗む。
- 妨害スリ (Blockier Trick)

一人の犯人が被害者の前に立ちはだかる。二人目の犯人が後ろにいて、身体接触を試み、貴重品を上着などから盗む。

➤ 圧迫スリ (Drängel Trick)

犯人は被害者の後ろ、横、あるいは何人かの犯人が挟みうちにして圧迫してくる。身体接触を試みてカバンの中から貴重品を盗む。

➤ 携帯電話スリ (Handydiebstahl Trick)

犯人は特定の物を使って被害者の注意をそらし、その際にテーブルの上にある携帯電話/スマートフォンに覆いかぶさり気が付かないように盗む。

➤ ホテルスリ (Hotel Trick)

ホテルレストラン、朝食会場などで宿泊客がテーブルに置いている貴重品やカバンが盗まれる。またこの犯人はホテル受付やロビー付近の客の手荷物も盗む。

➤ 追跡スリ (Nachläufer Trick)

犯人は被害者がATMで引き出すところを見ており、パスワードやカードを探し出す。共犯者などがこの情報でおなじくATMから現金を盗んだりする。

➤ エスカレータースリ (Rolltreppen Trick)

犯人は非常ボタンを押して一度エスカレーターを止める。突然止まった際に第二、第三の共犯者が後ろから押してきて盗む。

➤ 鍵スリ (Schlüsseldiebstahls Trick)

このやり方は住宅地街で発生する。最初の犯人が被害者の鍵を盗む。別の犯人がこの鍵を使って部屋に侵入し、現金や貴重品を盗む。その後鍵は見つからないようにこっそりその場に置き去りにしたりする。

➤ 装飾スリ (Schnucktrick)

被害者が身に着けている装飾品を偽物と換える。犯人は被害者の家に来て、道を尋ねたり、近くの病院への行き方などをたずねる。御礼としてネックレスやブレスレットを見せる。同時に、被害者の本物の装飾を盗む。多くの被害者は後になって気が付く。

➤ 寄付金リストスリ (Spendenlisten Trick)

路上での募金活動を装うもの。募金活動を装い、被害者に近づいて、財布や携帯電話を盗む。

➤ スポーツやサッカーズリ (Sport- und Fußball- Trick)

犯人は被害者にスポーツに関して話しかける。その際に格闘技やサッカーを有無を言わずやってみせる。被害者に近寄って、足をからませたりして、その隙に貴重品を盗む。

➤ ぶつかりズリ

混雑の中、ぶつかってくる、あるいは階段で二方向から挟まれる、バスに乗る際に前の人が躓いたり突然かんだり立ち止まる。被害者がぶつかって立ち止まり、注意がそがれている間に共犯が財布を抜き取る。

➤ 混雑ズリ

満員のバスや電車の中で体の前にぴったりくっついてきて、被害者がいやがって背を向けると、ショルダーバッグは被害者の後ろに回り、中身をすられる。

➤ 道聞きズリ

地図を目の前につきだしたり、手渡したり、駅のホームなどにある地図を見せて道を聞く。被害者が地図に集中している間に、共犯がハンドバッグやショルダーバッグから財布を抜き取る。

➤ 両替ズリ

コイン(2ユーロ貨幣の場合が多い)の両替を頼まれる。被害者が財布を出し小銭入れを開けた際に、犯人は小銭入れにコインを放り込み、「これに換えて」と中にあるコインを指さしたりして被害者の度肝を抜く。そのすきに札入れから紙幣を抜き取る。

➤ ケチャップ・アイスズリ

被害者が特に銀行から出てきたところに、ケチャップ、アイスその他の液体を付けられ、犯人はいろいろ謝りながら拭き取り、その間に引き出したばかりの現金を抜き取る。

➤ スーパーマーケットズリ

店内で特定の商品が、「どこにあるか教えてくれ。」と声をかけられ、探している間に買い物カートに乗せておいたバッグの中身を抜き取られる。

➤ 抱き上げズリ

飲食店で、「自分は力持ちで抱き上げれば被害者の体重を当てられる。」と言い、被害者を抱え上げたすきに本人ないし共犯が財布を抜き取る。

➤ 物乞いズリ

飲食店内あるいは屋外カフェに座っていると子どもがやってきて、寄付をお願いする文句の書かれた紙を差し出す。あるいは道を歩いている被害者につきまとい金をねだる。被害者が気を取られている間に、その子あるいは共犯が財布を取る。

➤ お花ズリ

犯人は、道を歩いている被害者に挨拶をしてきたり、抱きついたり、花を洋服に差す。あつげにとられている間に財布が抜き取られる。

➤ レストランズリ

レストランで、隣や後ろのテーブルに座りメニューを見ていた人が、いつの間にか注文もしないで店からいなくなっている。自分の椅子に掛けておいたジャケットやバッグに入れていた財布も消えている。

また、少数ながらグループ犯行ではなく単独犯のスリ(ドイツ人であることが多い)は、次のような手口を使うことがあります。

➤ **荷物持ちスリ**

年配の女性がい物をしているところを密かに観察し、買い物袋を下げているところへ親切そうに、「荷物を家までお運びします。」と声をかけてくる。アパートに入ると高齢者ではついていけないような速さで階段を駆け上がり、その間にバッグから財布を抜き取り、玄関に荷物を置き階段を下りてきて挨拶をしながら去っていく。家に入って荷物を開けたときに初めて財布がなくなっていることに気がつく。

スリにしやすい場所

◆ **公共交通機関の駅や停留所、電車やバスの車内**

▷ ベルリン市内中心部のSバーン

◆ **ショッピングセンター、ショッピング街、デパート、市場、スーパーマーケット**

▷ 2018年2月、ベルリン州警察の Facebook 上において、スリ等の窃盗事件の多発地帯について以下のとおり明示しておりますので、十分ご注意願います。

アレキサンダープラッツ、コットブッザー門、ヴァルシャウアー橋、フリードリヒ通り（ミッテ）、ベルリン中央駅、タウエンツェーン通り（ツォー駅からヴィテンベルクプラッツ付近）、メッセ、シュパンダウ、シュロス通り

◆ **スポーツの試合、メッセ、クリスマスマルクトなどの大きなイベント会場など、人が大勢集まり混雑している場所**

スリにしやすい季節・時間

◆ **公共交通機関では夕方のラッシュ時**

◆ **長距離列車内の深夜、早朝**

◆ **長距離列車(発着駅)、空港などでは休暇シーズン**

◆ **ショッピング・センターなどでは閉店までの1、2時間、夏と冬のバーゲン時やクリスマス前**

警察の犯罪統計

ドイツでは、2016年に164,771件のポケットや身に付けているバッグからの窃盗(スリ)が報告されています。平均すると1日451件以上、1時間に18件以上という計算になります。

ベルリンでは、2016年44,722件のスリによる被害が届け出られています。平均すると1日122件以上、1時間に5件以上発生したことになります。

いずれも前年より増加傾向にあります。

被害者の感覚や、置いてあるバッグから財布などが盗まれた場合や気がつかない間にバッグごと盗まれた場合も、一般的には「スリ」と考えられますが、警察の犯罪統計では「スリ」に含まれるのは、身につけているバッグあるいは洋服のポケットから財布などが盗まれた場合のみです。

スリから身を守るには

混雑している場で、意識的にスリに気をつけ、スリの使う手口に引っかからなければ被害に遭うことはないでしょう。特に、女性は狙われやすいので注意が必要です。

スリは、特有の狙いを定めるような視線のため、見分けることが容易です。スリは、人と目を合わせず、ハンドバッグやショルダーバッグを見えています。何かを頼んだり、聞いたり、押したりぶつかってきたり、立ち止まったりぶつかったりせざるを得ない状況を作ったりするのは、注意をそらせて気付かれずに財布を抜き取るための手口です。

アドバイス

- ◆ 現金、クレジットカード、身分証明書などは、ボタンやファスナーを閉められる洋服の内ポケットに、別々にしっかり身につけましょう。
ハンドバッグ、ショルダーバッグは、ボタンやファスナーを閉めて前に掛けるか脇に抱えましょう。
- ◆ 首から提げる貴重品入れ、腹巻き型貴重品入れ、ウェストポーチ、チェーンでベルトにつながっている財布などを利用しましょう。
- ◆ 財布は買い物袋、買い物かご、買い物カートには入れず、しっかり身につけましょう。
- ◆ ハンドバッグはレストランやデパート、お店の中で椅子の背もたれに掛けたり、洋服や靴を試着する際に目の届かないところに置いたりするのはやめましょう。

Ⅱ. 在留邦人用緊急事態対処マニュアル

1. 平素の準備と心構え

(1) 連絡体制の整備

(イ) 在留届を必ず提出してください。また、ご家族の帰国、転居等在留届の記載内容に変更が

あったときは必ず、大使館に届け出てください。(変更の届出は、Fax、電話やインターネットの在留届電子届出システムでも受付けています。)

- (ロ) 緊急連絡は、在留届に基づいて行いますが、在留邦人の皆様が組織しているグループや団体などで独自の連絡網を有しておられましたら、大使館にご連絡願います。これらの連絡網を大使館からの緊急事態の際の連絡網に組み込んでいきたいと考えております。
- (ハ) 緊急事態はいつ起こるとも限りません。そのような場合に備え家族間、企業内での緊急連絡方法等を平素から決めておき、適宜、連絡方法等を確認してください。また、各自の日常の所在も家族や同僚等に知らせておくことが大切です。

(2) 緊急事態における携行品、非常用物資の準備

- (イ) 旅券、住民登録証明書のほか、最低限必要な現金は、直ちに持ち出せるように予めまとめておきます。
- (ロ) 緊急時には一定期間自宅での待機を余儀なくされることもあります。非常用食糧品、医薬品、燃料などを家族構成にあわせ、平素から準備しておくことが望まれます。
- (ハ) 準備についてのチェックリストは別添2のとおりです。

2. 緊急時の行動

(1) 心構え

平静を保ち、流言飛語に惑わされたり、群集心理に巻き込まれたりすることのないように注意してください。

(2) 情報の把握

- (イ) 大使館からの情報は、ホームページ、領事メール、緊急連絡網等により提供します。
- (ロ) 緊急事態発生の際には、当地報道、JSTV、インターネットなどによる正確な情報収集を各自心掛けてください。

(3) 大使館との連絡等

- (イ) ご自身や家族又は他の在留邦人の生命・身体・財産に危害が及んだとき、または及ぶ恐れがあるときは、迅速かつ具体的にその状況を大使館にお知らせください。
- (ロ) 緊急事態発生の際には、お互いに助け合って対応に当ることが必要になります。場合によっては、在留邦人の皆様に大使館から種々お願いすることもあるかと思いますが、その際には御協力をお願いします。

3. 緊急連絡先

(2018年1月現在)

日本語	ドイツ語	電話番号
警察	Polizei	110
消防署	Feuerwehr	112
救急医(歯科緊急対応含) ドイツ保険	Notarzt	3100 31 116-117
中毒緊急対応センター	Giftnotruf Berlin	030-19240
自動車事故救援サービス	Pannenhilfe	0180-2222 222 (ADAC)
ガス	GASAG Entstörungsdienst	030-7872 72
水道	Wasser Entstörungsdienst	0800-292 7587
BVG 遺失物預かり所	BVG-Fundbüro	030-1944 9
ドイツ鉄道遺失物預かり所	Fundbüro Deutsche Bahn AG	0900-199 0599
ベルリン市遺失物預かり所	Zentrales Fundbüro	030-9027 731 01
クレジットカード紛失	Kreditkarten Notruf	116116
	Visa(日本で発行されたもの)	0800-1822 099
	American Express (日本で発行されたもの)	0800-181 0778 0081-3-3220-6787
	Diners Club (日本で発行されたもの)	0800-819-1040
	Master(日本で発行されたもの)	001-636-722-7111 00531-11-3886
	JCB(日本で発行されたもの)	0800-182-2991(ドイツから)
在ドイツ日本国大使館	Botschaft von Japan	030-21094-0(代表) (時間外、緊急時を含む)
在デュッセルドルフ総領事館	Japanisches Generalkonsulat in Düsseldorf	0211-16482-0 (同上)
在ハンブルク総領事館	Japanisches Generalkonsulat in Hamburg	040-3330 17-0 (同上)
在フランクフルト総領事館	Japanisches Generalkonsulat in Frankfurt	069-2385 73-0 (同上)
在ミュンヘン総領事館	Japanisches Generalkonsulat in München	089-4176 04-0 (同上)
外国人局	Landeseinwohneramt Abt.Ausländerangelegenheiten	030-9026 90
運転免許局	Landeseinwohneramt Referat Fahrerlaubnisse	030-90269 2300
ベルリン公式観光ポータル	Visit Berlin	030-2500 2333

被害届出証明作成依頼書

被害届出証明書: 旅券が盗難(紛失)に遭った際の警察への届出には、盗難に遭った日時、場所などを申し出る必要があります。当地に不慣れな旅行者の方々のために、警察への説明に必要と思われる事項を取りまとめましたので、ご利用いただければ幸いです。なお、説明事項はローマ字でご記入願います。

An den Polizeipräsidenten

Botschaft von Japan
Japanisches Generalkonsulat

Beantragung der Aufnahme eines Polizeiprotokolls

Der unten genannten Personen ist der Pass bzw. das Gepäck gestohlen worden. Um einen neuen Reisepass zu beantragen, bzw. um den Gepäckverlust anzuzeigen, benötigt sie eine Pass- bzw. Gepäckverlustanzeige.

Da die betroffene Person kaum Deutsch oder Englisch spricht, hat die Botschaft von Japan dieses Formular vorbereitet, um die Verständigung und die Bearbeitung zu erleichtern.

Wir danken Ihnen für Ihre Mühe und Ihre Hilfe.

Konsularabteilung

(届出年月日) _____ Tag 日、 _____ Monat 月、 _____ Jahr 年

Betroffene Person (被害者氏名)	Zuname: (姓)
	Vorname: (名)
Geburtsdatum (生年月日)	Tag (日) :
	Monat (月) :
	Jahr (年) :

■ **Aufenthaltort in Deutschland** (現在の宿泊場所、ホテル名、知人宅等)

Tel. _____.

■ **Angaben zum Zeitpunkt des Vorfalls** (被害発生年月日)

Tag(日): _____ Monat(月): _____ Jahr(年): _____ Uhrzeit(時間): _____

■ **Angaben zum Tatort / Verlustort** (被害発生場所、盗難・紛失場所)

- Im Cafe / Restaurant (カフェ、レストランで): _____
- Im Hotel (ホテルで) : _____
- Im Zug, In der U-Bahn / S-Bahn (電車、U-バーン/S-バーン内・駅で)
駅名や路線番号等記入: _____
- Am Flughafen (空港で—空港名): _____
- Im Bus (バス内—路線名や区間名等)
: _____
- Im Kaufhaus (デパート内で—店名): _____

■ **Schaden** (盗難・紛失物の内容について)

- Koffer (スーツケース) Bargeld (現金)
- Rucksack (リュックサック) Portmonee (財布・小銭入れ)
- Handtasche (ハンドバッグ) Kreditkarten (クレジットカード類)
- Reisetasche (旅行かばん) Handy (携帯電話)
- Sonstiges (その他のかばん類) Kamera (カメラ)
: _____: Notebook (ノートブック)
- Pass (旅券) Sonstiges (その他): _____:
- Flugticket (航空券)

◇ Gesamtwert: (被害総額) _____ Euro

■ **Eventuelle Adresse in Japan** (日本での住所、必要な場合に記入)

Postleitzahl(郵便番号): _____ /Japan

緊急事態に備えてのチェックリスト

- 旅券、運転免許証等
旅券については、常時6か月以上の残存有効期間があることを確認しておいてください(残存有効期限が1年未満であれば随時切り替え発給の申請ができます。)。旅券の最終頁の「所持人記載欄」は必ず記載しておいてください。同欄余白には血液型(Blood type)を記入しておくことが望まれます。
- 現金、貴金属、貯金通帳等の有価証券、クレジットカード
これらは旅券同様にすぐ持ち出せるように日頃から保管場所を確認しておいてください。
- 自動車の整備等
自動車をお持ちの方は常時整備しておくよう心掛けてください。
燃料は常時十分入れておくようにしてください。
車内には、常時、懐中電灯、地図等を備え置きください。
- 携行品の準備
避難場所への移動を必要とする事態に備え、上記に加え次の携行品を備え置き、いつでも持ち出せるようにしておくことが望まれます。
 - 衣類・着替え(長袖、長ズボン。行動に便利なものが望ましい)
 - 履物(行動に便利なもの)
 - 洗面用具(タオル、歯磨きセット、石鹸等)
 - 非常用食料等(しばらく自宅待機する場合も想定して、米、調味料、缶詰類、インスタント食品、粉ミルク等の保存食及びミネラルウォーターを家族全員で数日間程度生活できる量)
 - 医薬品等(家族用常備薬のほか、常用薬、外傷薬、消毒用石鹸、衛生綿、包帯、絆創膏、オムツ、生理用品)
 - ラジオ
NHK 海外放送(ラジオジャパン)、BBC などの短波放送が受信できる電池使用のもの(電池の予備を忘れないようにしてください)。
 - その他
 - 懐中電灯 ライター ロウソク マッチ ナイフ 缶切り
 - 栓抜き 紙製食器 割り箸 固形燃料 簡単な炊事用具類
 - 携帯電話充電器 予備の強カバッテリー 筆記具 メモ用紙